

# 同和教育研修会に 参加して

## 第36回朝田教育財団

今年も朝田教育財団の研修会に参加させてもらった。今年は「朝田善之助記念館」の完成を記念した研修会ということで7月13日、ホテルオークラを会場にしておこなわれた。

京都文教大学の竹口等・

教授から「朝田善之助記念館の開館にあたって」という講演を拝聴した。朝田元委員長の前戦後の活躍とそれを支えたご家族のお話を聞き、朝田元委員長のすごさとご家族のすごさを感じた。その後、いわゆる「朝田学校」の思い出が語られた。「朝田学校」は1950年代頃から、京都・田中の朝田元委員長の自宅で、夜な夜な青年が解放運動について学び議論していたことからつけられた名称である。そこで学んだ全国の青年活動家が、いま全国の各分野で指導者として活躍している。和歌山県連の藤本哲史・執行委員長もその一人である。高校を卒業して京都に進学した藤本委員長は、すぐに朝田学校に参加し、学習をつづけられていた。当時、私はまだ定職につかず、ぶらぶらしていたので時々藤本委員長を頼って京都に遊びに行っていたが、そこでよく朝田学校のことを聞かされた。熱気あふれるその学習の様子にあこがれと少しの恐怖を感じたのを覚えている。

もう遠い昔のことだが・・・

そこでは、青年が取り組む合いのけんかを（もちろん解放運動に関しての）していても朝田委員長は笑ってみているだけであつたとのこと。しかし、ひどく運動の話になると、理路整然と何時間でも話す熱意をもっていた。運動に対しては、非常に厳しく、人に対しては優しさをもっておられた指導者であつたらしい。だからこそ、いつも若い人がその周りに集まっていたのだろう。

その後「朝田教育財団」設立の経過と「朝田善之助記念館」建設の経過について説明があつた。そのなかで朝田委員長の膨大な資料の整理について話された。完全に整理は終わってないそうである。この記念館ができたことにより、整理が進むことが期待されている。どんな資料が残っているのか。その資料を使って新しい研究がすすむのか楽しみである。個人的には朝田委員長が和歌山の「N県議差別事件」に、どのようにかかわり、指導されたのかしりたいたいと思つている。

### 各支部で大会開催

研修会の後、記念レセプションが予定されていたが、講演は1時間ほどであつたが、故朝田委員長の

●伏原支部の定期大会が3月31日、伏原文化会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 金本 清春

●名古屋支部の定期大会が4月12日、名古屋会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 寺本 忠行

●鳴神支部の定期大会が4月20日、鳴神文化会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 谷口 巖

●御坊支部の定期大会が4月25日、財部会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 細川 健次郎

●橋本支部の定期大会が4月27日、岸上文化会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 寺本 典司

●湯浅支部の定期大会が4月27日、総合センターで開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 石本 一也

●新宮支部の定期大会が5月18日、下田隣保館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 中上 和年

●古和支部の定期大会が5月19日、古和田会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 山本 潤

●善明寺支部の定期大会が5月26日、善明寺文化会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 中辻 繁樹

●笠田支部の定期大会が5月30日、笠田東児童館で開催された。役員はつぎのとおり。

ことを久しぶりに聞くことができてうれしかった。レセプションに参加してもいいと県連から言われていたが、一人で参加することの不安から断つてしまった。帰りの車のなかで今頃、朝田委員長の話で盛り上がりつつあるのかなと思うと少し後悔した。同時に運動に参加したての若い頃、藤本委員長に言われて、社会科学の本をあまり整理できない

ままよみ、「三つの命題」を理解しようと思戦苦闘していたころのことを思い出して、今の自分の不甲斐なさを少し嘆いた。帰ったら、今日ももらった「追悼 朝田善之助 差別と闘い続ける」を読んで勉強しなうと、その時は思った。いろいろな意味で暑い京都であつた。

(山本敏明)

支部長 西田 美津代

●山口支部の定期大会が6月28日、山口会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 小西 孝

●杭ノ瀬支部の定期大会が7月7日、杭ノ瀬文化会館で開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 藤本 哲史

●平井支部の定期大会が7月7日、河北コミュニティセンターで開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 瀧口 秀光

●芦原支部の定期大会が7月26日、中央コミュニティセンターで開催された。役員はつぎのとおり。

支部長 山本 敏明

●各支部組織部はつぎのとおり。

4/4 平井女性部

4/20 鳴神女性部

5/26 善明寺女性部

6/20 那賀女性部

6/22 新宮女性部

6/29 古和田女性部

4/27 湯浅女性部

5/19 那賀青年部

# 北山誠一を偲んで

6

6回目の連載になる。組織運営をめぐる執行部が機能停止寸前の状況にき詰ってきた頃、北山誠一があつた。また、中央本部とは、着々とみずからの目標の関係も最悪の状況になつてもある運動の広がりに向けていった。

そして、1974年、執行部は突然、これまでの議論や中央本部との話し合いを反故にし、「第19回県連大会」の開催方針を一方的に決定した。これにたいし、3支部を含めた11支部と一栄地区だけでなく、より多くの住民の参加を考えてのことで特筆する運営であつた。そこで、部落解放運動の課題はもとより、日常生活に密着したことを参加者で出し合い、その実現に向けてとりくみをすすめていこうとするもので、同和対策事業を軸に街づくりをめざすとりくみと連動したものであつた。そして、3年後に結成される「湯浅町共闘会議」の結成の原動力にもなつていった。また、同じ年、生涯のつれあい多恵子さんと結婚式をあげ、私生活でも充実していった。

結局、予定日である8月18日を迎えた。北山らは、浅、杭ノ瀬、平井の3支部の行動や企業連のとりくみもあつて県連の運動方針や

(次号につづく)